

2024年3月期 決算説明会

2024年5月22日(水)



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

重要な注意

- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

出席者

- ① 代表取締役社長 山口 隆
- ② 代表取締役専務取締役 丸尾 篤嗣
- ③ 代表取締役専務取締役 山口 惣大

2024年3月期 連結決算概要



あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役専務取締役 丸尾 篤嗣

2024年3月期 決算ハイライト

売上高 (連結)

- ✓ **628億円、前同比3.9%増加し過去最高を更新**
産婦人科領域を中心とした医療用医薬品事業の拡大により過去最高を更新

売上原価

- ✓ **321億円、売上原価率 前同比1.5ポイント改善**
先発医薬品であるレルミナ、チラーヂン、リフキシマの伸長による製品ミックス改善等が寄与

販管費及び 一般管理費

- ✓ **241億円、売上高販管費率 前同比0.4ポイント改善**
研究開発の進展に伴う費用は増加したものの、減価償却費が減少した結果、販管費率が改善

営業利益

- ✓ **65億円、前同比27.3%増加し過去最高を更新**
売上、売上総利益の増加により増益

損益計算書（連結）

単位：百万円	2023年3月期	2024年3月期	増減額	増減率
売上高	60,461	62,843	2,381	3.9%
売上原価	31,876	32,178	301	1.0%
売上総利益	28,584	30,664	2,079	7.3%
販売費及び一般管理費	23,476	24,164	687	2.9%
営業利益	5,108	6,500	1,392	27.3%
経常利益	5,232	6,522	1,289	24.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,238	7,545	3,307	78.0%

※ 2024年3月期に投資有価証券の売却に伴う特別利益を3,340百万円計上

事業別売上高（連結）

単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	53,579	56,016	89.1%	2,436	4.5%
アニマルヘルス事業	6,660	6,664	10.6%	3	0.0%
その他事業	220	162	0.3%	△58	△26.3%
合計	60,461	62,843	100.0%	2,381	3.9%

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2023年3月期	2024年3月期		2025年3月期計画		特記事項（24年3月期）
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	10,723	9,593	△10.5%	8,626	△10.1%	薬価はダウンしたが数量ベースを維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	7,733	7,862	1.7%	8,018	2.0%	想定通りの進捗
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	5,397	5,864	8.7%	6,117	4.3%	ガイドライン浸透により堅調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	1,486	1,521	2.3%	1,510	△0.7%	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	901	840	△6.7%	806	△4.1%	想定通りの進捗
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	8,839	9,906	12.1%	11,251	13.6%	子宮内膜症での浸透活動を継続
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	3,671	6,125	66.8%	5,990	△2.2%	市場拡大が進む中で想定以上に新規処方を獲得
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	3,489	3,303	△5.4%	3,101	△6.1%	数量は増加したが当初想定よりは下回る
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	1,251	2,029	62.1%	2,106	3.8%	外部要因等の影響が継続
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	784	725	△7.5%	790	9.0%	他社品への流出による減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	626	706	12.7%	665	△5.8%	薬価上昇分が実績に反映
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	4,999	4,430	△11.4%	3,962	△10.6%	期初想定より他剤への切り替えが継続

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

主要事業分野売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

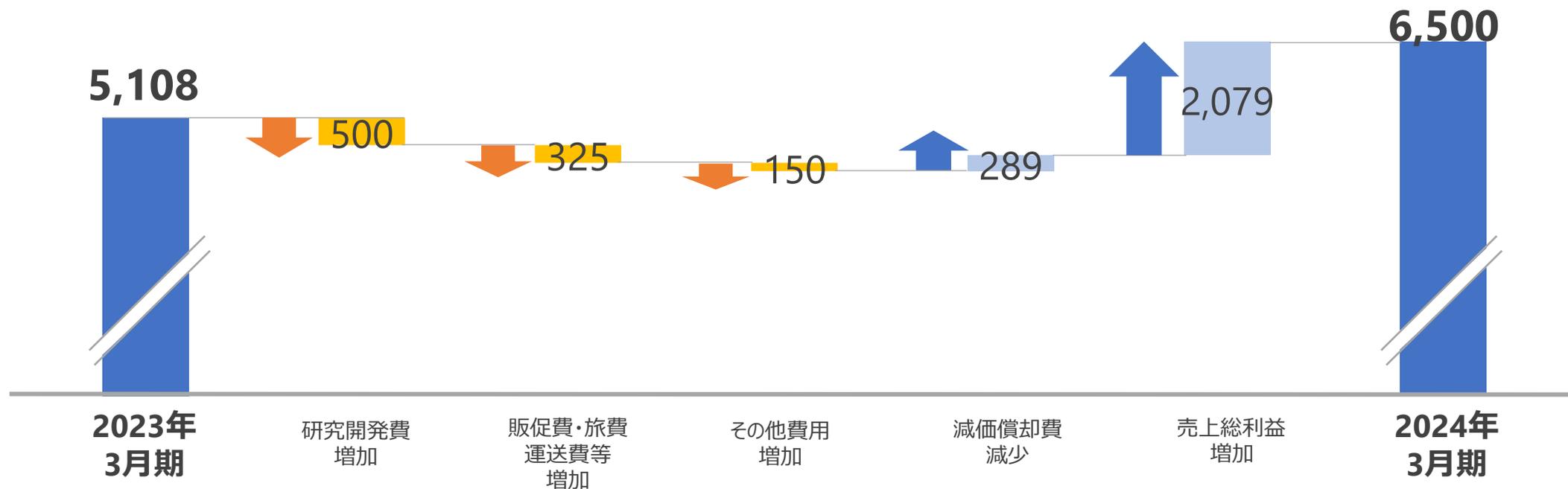
事業分野	2023年3月期	2024年3月期		2025年3月期計画	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	4,152	4,042	△2.7	4,031	△0.2
動物用医薬品	2,370	2,487	4.9	2,534	1.9

主な要因

- 2024年3月期は、飼料添加物等が市場環境の影響を受け減少したものの、動物用医薬品は抗生物質製剤やコンパニオンアニマル用製品が伸長したことで増加
- 2025年3月期は、飼料添加物等は現状維持、動物用医薬品は引き続きコンパニオンアニマル用製品の伸長を見込む

営業利益増減分析（対2023年3月期）

単位：百万円



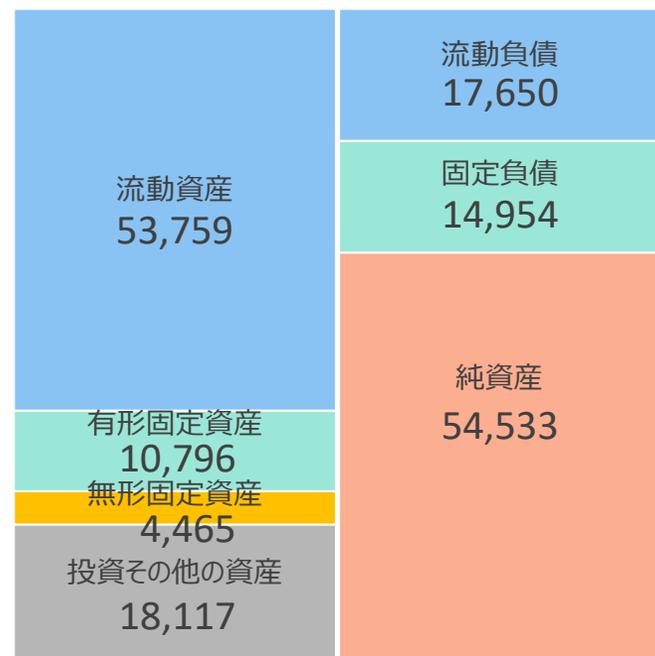
主な要因

- 探索研究の活発化や非臨床・臨床試験の進展により研究開発費は増加
- 経済活動の正常化に伴い事業活動が回復し経費が増加
- 販売権の償却費減に伴う減価償却費の減少、売上総利益の増加により増益を達成

貸借対照表 (連結)

2023年3月末

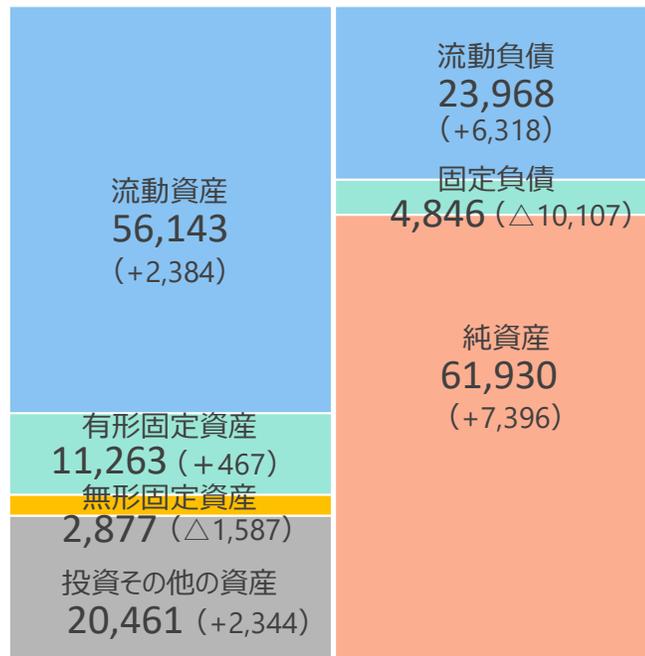
単位：百万円



総資産 87,138百万円

2024年3月末

単位：百万円



総資産 90,745百万円 (+3,607)

単位：百万円

資産の部

売掛金	+362
商品及び製品	+1,763
原材料及び貯蔵品	+915
無形固定資産	Δ1,587
投資有価証券	+1,269

負債・純資産の部

未払法人税等	+2,159
短期・長期借入金	Δ3,138
退職給付に係る負債	Δ5,433
利益剰余金	+6,752

主な要因

- 資産の部 売掛金・商品及び製品・原材料及び貯蔵品は増加
販売権償却により無形固定資産は減少、投資有価証券は増加
- 負債・純資産の部 短期・長期借入金に加えて退職給付に係る負債が減少、純資産は利益剰余金を中心に増加

2025年3月期業績予想（連結）

単位：百万円

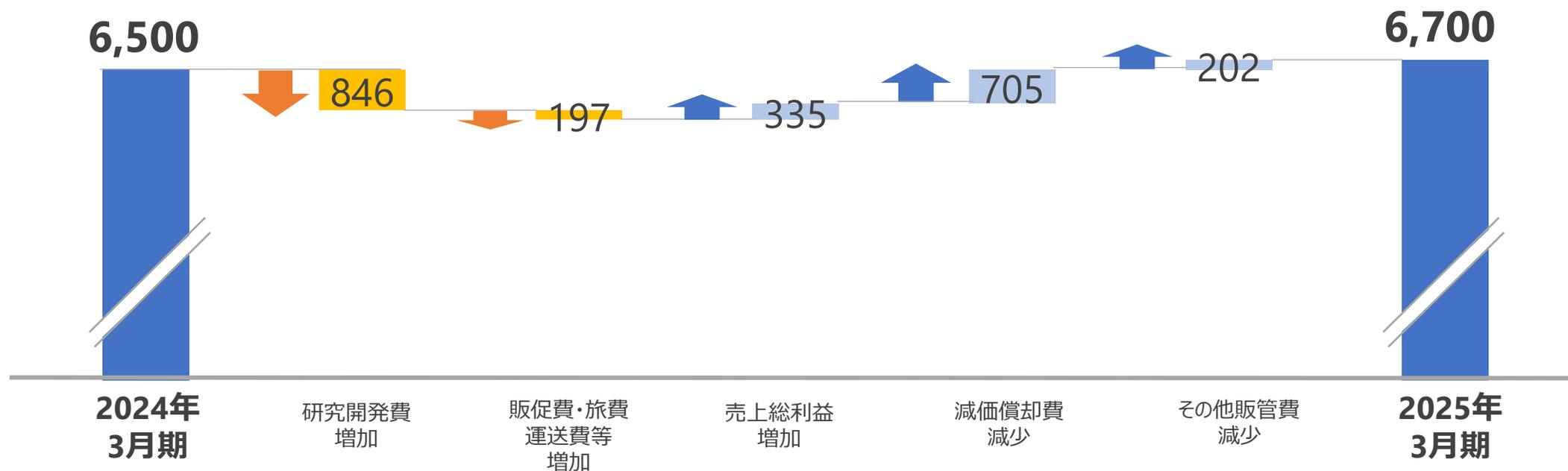
	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	62,843	63,000	156	0.2%
営業利益	6,500	6,700	199	3.1%
経常利益	6,522	6,700	177	2.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,545	5,000	△2,545	△33.7%

主な要因

- 売上高は、主力の医療用医薬品事業において毎年薬価改定の影響を受けるものの、レルミナを中心とした産婦人科領域製品等の伸長が寄与し、増収を予想
- 利益面は、研究開発費の増加が見込まれるものの、売上総利益の増加、減価償却費の減少等により、営業利益、経常利益は前年度を上回る見込み
- 親会社株主に帰属する当期純利益については、2024年3月期に政策保有株式の売却益が発生したことを受け、2025年3月期は減益となる見込み

営業利益増減分析（対2024年3月期）

単位：百万円



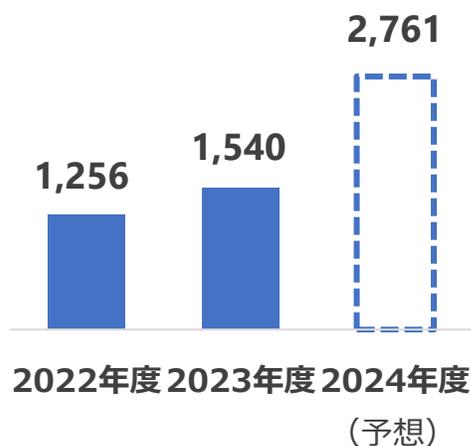
主な要因

- 探索研究の活発化や臨床試験の進展等により研究開発費は増加
- 事業活動がより一層活発化し経費が増加
- 販売権等の償却費・その他販管費の減少、売上総利益の増加により、増益見込み

設備投資・減価償却費・研究開発費

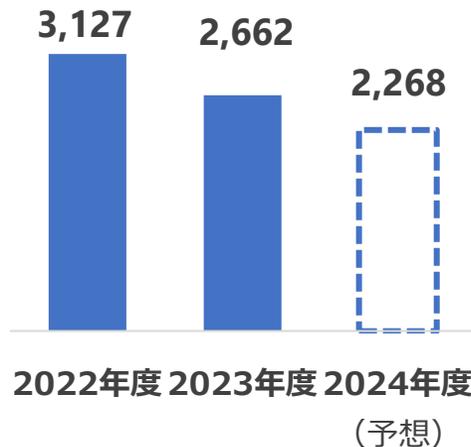
設備投資 (有形・ソフトウェア 編入ベース)

単位：百万円



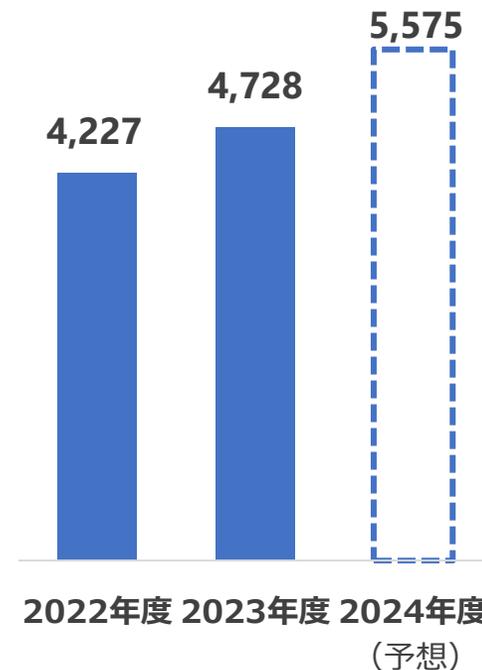
減価償却費 (有形・無形合計)

単位：百万円



研究開発費

単位：百万円



主な要因

設備投資 : いわき工場の生産能力増強のための改修等を予定しており、前年度を上回る見込み

減価償却費 : 販売権の償却費減少により前年度を下回る見込み

研究開発費 : 探索研究の活発化や臨床試験の進展により前年度を上回る見込み

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けて



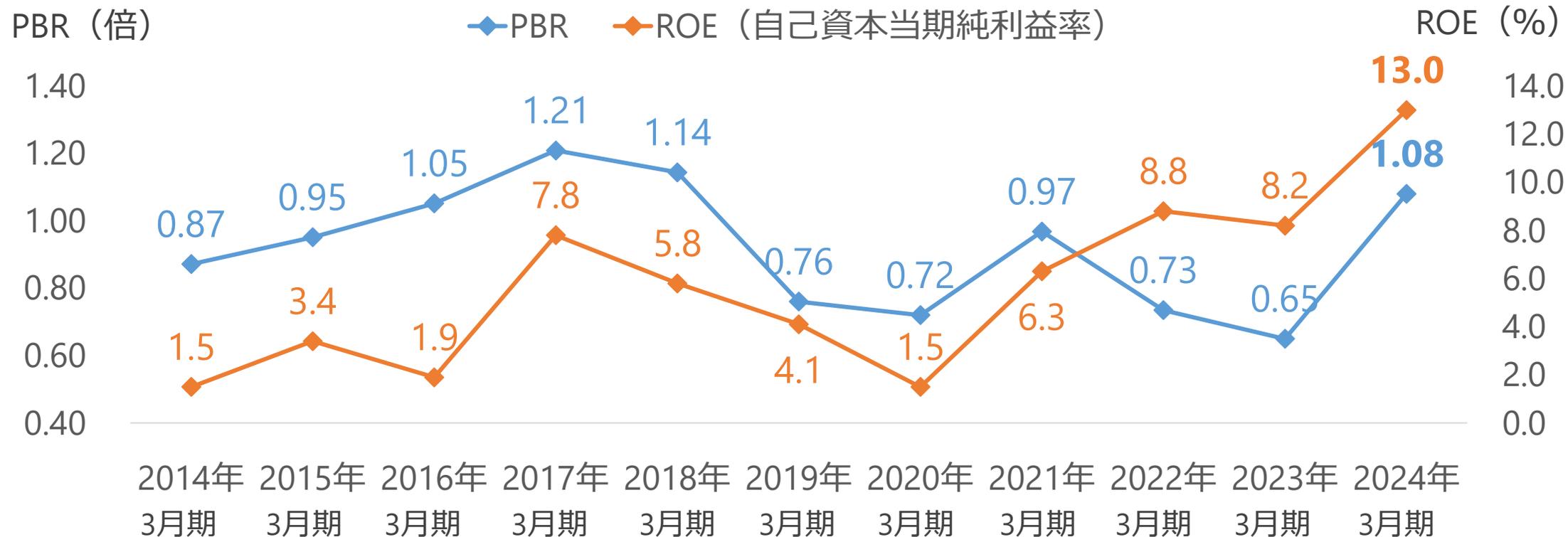
あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役専務取締役 丸尾 篤嗣

PBR 1倍超の早期実現を目指すための取り組み

1. 成長戦略（成長戦略の実施、キャッシュフローの最適化）
2. 株主還元の強化（2025年3月期以降、連結配当性向30%を目安）
3. IR活動の強化（対話機会の創出、開示情報の充実）

上記に加えてESG経営の推進などに積極的に取り組み資本コストや株価を意識した経営を推進していく

PBRとROEの推移



PBRは改善傾向

※2014-2024 3月期のPBRは期末株価にて算出、2014年～2021年3月期はあすか製薬株式会社、
2022年3月期以降はあすか製薬ホールディングス株式会社

具体的取り組み ①成長戦略の実施（キャッシュアロケーションの最適化）

FY2023-2025計画（2023年11月開示）

成長原資	投資の方向性	目的	配分	
営業CF※ 200億	成長投資	医薬品事業	研究開発、事業開発強化によるパイプライン拡充	150億 +α
		新規分野	フェムテック、CVC、デジタルヘルス	
			検査、アニマルヘルス（CA）	
		海外展開	東南アジアでの事業確立	
政策保有株式 売却に伴うキャッシュ 30億	経営基盤の強化	M&A	成長に必要な能力獲得	30-40億
		生産設備更新・拡充		
		デジタルトランスフォーメーション		
資金調達（+α）	株主還元	人的資本への投資		30-40億
		配当、自社株買い		

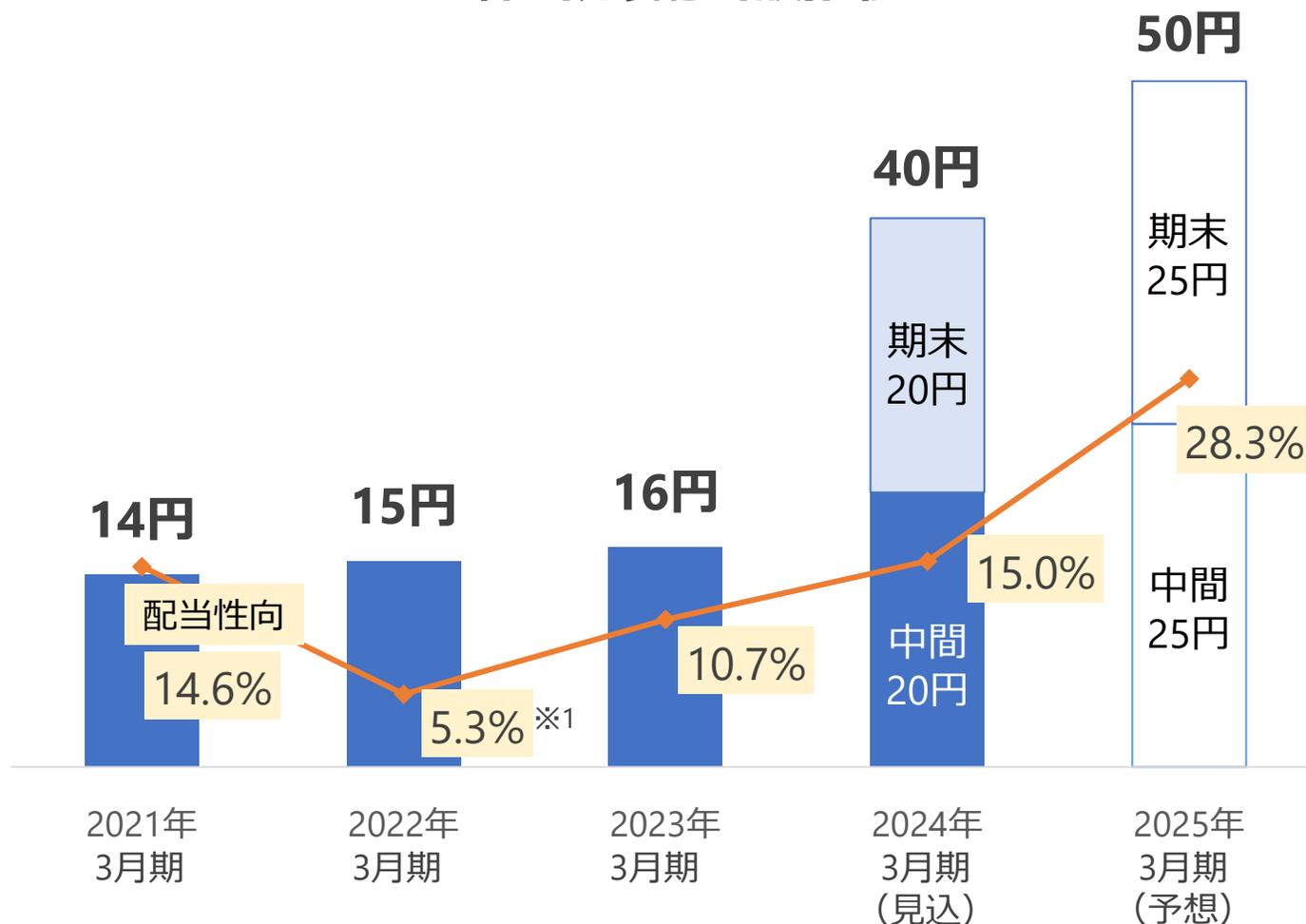
FY2023実績

投資分野	主な実績	
成長投資	約50億	研究開発費（除く固定費） Hataphar社増資 CVCへの出資
経営基盤の強化	約15億	設備投資（有形） 人的資本投資
株主還元	約11億	一株当たり配当金を16円から40円に増配

※想定営業利益 + 減価償却費
+ 研究開発費（除く固定費）

具体的取り組み ②株主還元強化

1株当たり配当額推移



株主還元方針

25年3月期以降は業績連動利益配分として、**連結配当性向30%を目安**といたします。また、一株当たり**配当金の下限は年間30円**として、業績に連動した利益還元を行いつつ安定的な配当を維持する方針といたします。

2025年3月期については2024年3月期より**10円増配し、年間50円**を予定しております。

※1 2022年3月期の中間配当7円は、その他資本剰余金からの配当であり、配当性向から除外して算出しております。

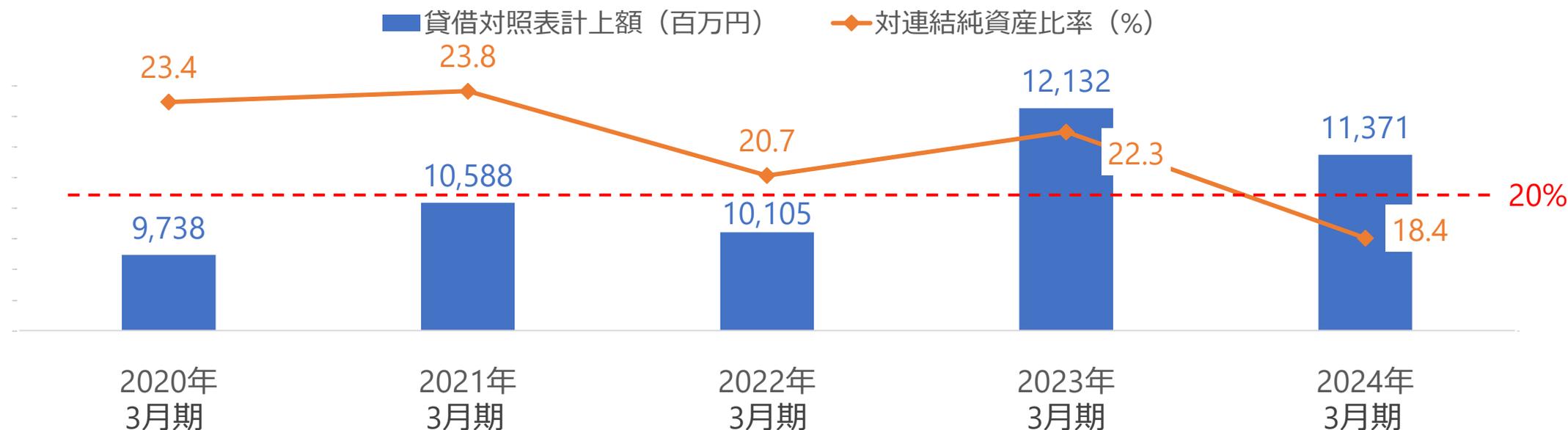
政策保有株式の縮減状況

政策保有株式縮減に向けて

資本効率の観点から政策保有の継続適否を検証し、その意義が必ずしも十分ではないと判断される株式については縮減を図ることとしています。

2024年3月末時点における当社グループの政策保有株式の連結純資産に対する割合は18.4%と、前期末に比べて3.9%低下しました。

政策保有株式の縮減状況



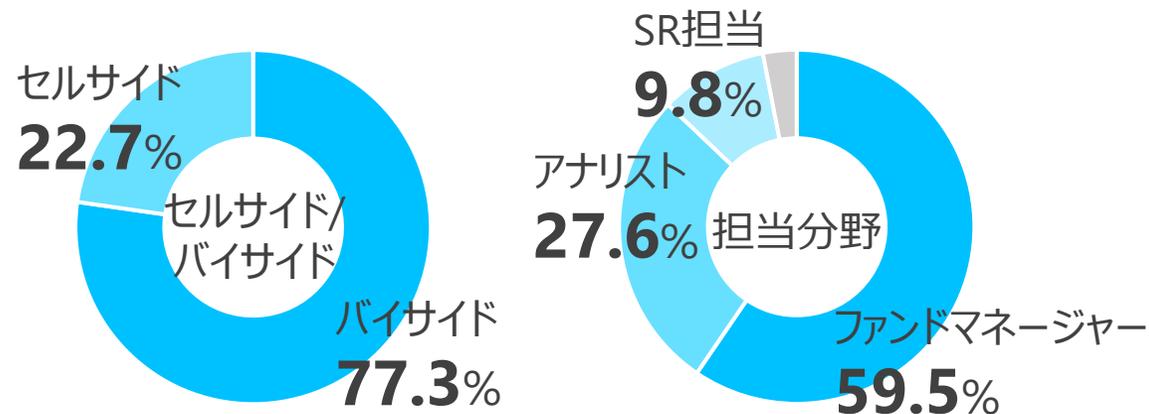
※ 2021年3月期以前はあすか製薬株式会社の数値を記載

具体的取り組み ③IR活動の強化

株主・投資家との対話状況 (2024年3月期)

活動内容	実績 (前年度)	対応者
決算説明会	2回 (2回)	経営層
証券会社主催 カンファレンス・ミーティング	3回 (1回)	経営層 IR担当部門
個人投資家向けIRイベント	2回 (1回)	IR担当部門
機関投資家向けIRイベント (パイプライン説明会)	1回 (0回)	経営層
個別IR取材/SR対話	100回 延べ110社 延べ163名 (79回)	経営層 IR/SR担当部門

IR/SR対話相手の属性情報



対話の主なテーマや関心事項

- ・女性ヘルスケア領域における今後の取り組み
- ・開発パイプライン
- ・中長期の成長に向けた取り組み
- ・株主還元、資本政策、財務戦略
- ・株価や資本コストを意識した経営の実現に向けた対応
- ・マネジメント体制、ガバナンス

現状評価と今後の方針

【現状評価】

- ✓4期連続で増収増益を達成し、ROEが改善する中で、昨年11月に資本コストや株価を意識した経営の実現に向け、① 成長戦略（キャッシュアロケーション開示） ② 株主還元の強化 ③ IR活動の強化 を打ち出した。これを受けてPBRは1倍を超えて改善傾向であり、取り組みは市場に評価・期待されていると認識。

【今後の方針】

- ✓事業面での持続的な成長を図ることに加えて、11月に開示した取り組みについてその実績を開示するなど、市場が期待している情報開示の拡充を進める。PBR1倍超えはスタート地点であり、引き続き企業価値向上のため、資本コストや株価を意識した経営を推進する。

2024年3月期総括 2025年3月期の取り組み



あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役社長 山口 隆

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

資本効率改善の取り組みを継続

1. 成長戦略 （成長戦略の実施、キャッシュフローの最適化）
2. 株主還元の強化 （2025年3月期以降、連結配当性向30%を目安）
3. IR活動の強化 （対話機会の創出、開示情報の充実）

上記加えてESG経営の推進などに積極的に取り組み資本コストや株価を意識した経営を推進していく

様々な環境変化に対応し企業の成長に繋げていく

あすか製薬ホールディングス株式会社

2024年3月期 総括

中期経営計画3年目を終えて

中期経営計画2025の目指す姿

スペシャリティファーマを基盤とする
トータルヘルスケアカンパニーを目指す

中期経営計画2025 数値目標
売上高700億円 営業利益率8% ROE8%

外部環境の変化に対して「専門性」「生み出す力」「社会貢献」
を軸に「4つのビジョン」「7つの戦略」を立案し中期経営計画を策定

専門性

生み出す力

社会貢献

中期経営計画2025 3年目総括

目標

中期経営計画 2025

売上高

700億円

営業利益率

8%

ROE

8%

中計 3年目 (2024年3月期) / 年度実績

売上高

628億円

営業利益

65億円

営業利益率

10.3%

当期純利益

75億円

ROE13.0%

中期経営計画の達成に向けて着実に進捗

中期経営計画2025 4年目計画

中期経営計画2025 数値目標
売上高700億円 営業利益率8% ROE8%

中期経営計画 3年目

2024年3月期 実績
売上高628億円 営業利益65億円 ROE13.0%

中期経営計画 4年目

2025年3月期 計画
売上高 630億円 営業利益67億円

7つの戦略 中計3年目の成果と今後の取り組み

戦略

1

スペシャリティ領域の
取り組み強化による
企業価値向上

2

先端創薬による新薬の
継続的創出

3

海外事業の展開

4

トータルヘルスケア実現に
向けた新たな価値提供

中計3年目の成果

- 産婦人科領域 年度売上No.1達成
- リフキシマ小児適応取得
- サスメド社と治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結
- AKP-022（レルゴリクス配合剤）Ph I / II 開始
- LF111 申請準備
- Red Arrow Therapeuticsと妊娠高血圧症候群治療薬開発の共同研究契約締結
- Hataphar（ベトナム）への増資完了
- Hataphar新工場WHO-GMP承認申請
- CVCを設立し投資開始
- 女性の健康に関する研修動画販売開始
- 新規飼料添加物 発売
- ホルモン量測定キット2製品 発売

今後の取り組み

- 新たな手法での女性の健康への貢献
- リフキシマの更なる浸透
- パイプラインの拡充
- AKP-022（レルゴリクス配合剤）の開発進展
- 自社創製シーズの創出
- 更なる協業のステップアップ
- PIC/S GMP 取得準備
- 医薬周辺領域への更なる投資と推進
- フェムテック事業の早期立上げ
- 動物用新製品の開発推進
- ホルモン量測定キットの早期浸透

7つの戦略 中計3年目の成果と今後の取り組み

戦略

5

業務効率化、コスト削減、
財務基盤の強化

6

コンプライアンスの徹底と
信頼性を重視する組織
風土の醸成

7

成長戦略を実現する
ための人材育成

中計3年目の成果

- 原価低減施策の継続
(2020年度 54.0%→ 2023年度51.2%)
- 不採算製品ポートフォリオの再検討

- 品質マネジメントレビューの継続
- コンプライアンス研修の継続実施

- 各種施策による柔軟な働き方の拡充
- 健康経営優良法人ホワイト500認定
(HDとして3年、製薬として6年連続)
- 教育研修制度の拡充
- ワークサポート応援金の創設と従業員に
対するがん保険加入の実施

今後の取り組み

- 外部要因によるコスト増への
継続対応
- クオリティカルチャーの維持
- 次世代リーダー育成プログラム
による人材育成の強化
- 人材の価値を引き出す投資の
継続

中期経営計画 後半の方向性

パイプラインの拡充

創薬研究体制の強化と、他社との協業を推進しパイプラインの拡充を図る

海外事業の確立

ベトナムにおいて事業を確立する

既存製品の価値最大化

疾患啓発、情報提供を継続し先発医薬品を中心に価値最大化を図る

トータルヘルスケアの実現

フェムテック事業の土台作り、コンパニオンアニマル製品、非侵襲性ホルモン量測定キットの拡充

2025年3月期

各事業会社の取り組み

あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業の展開

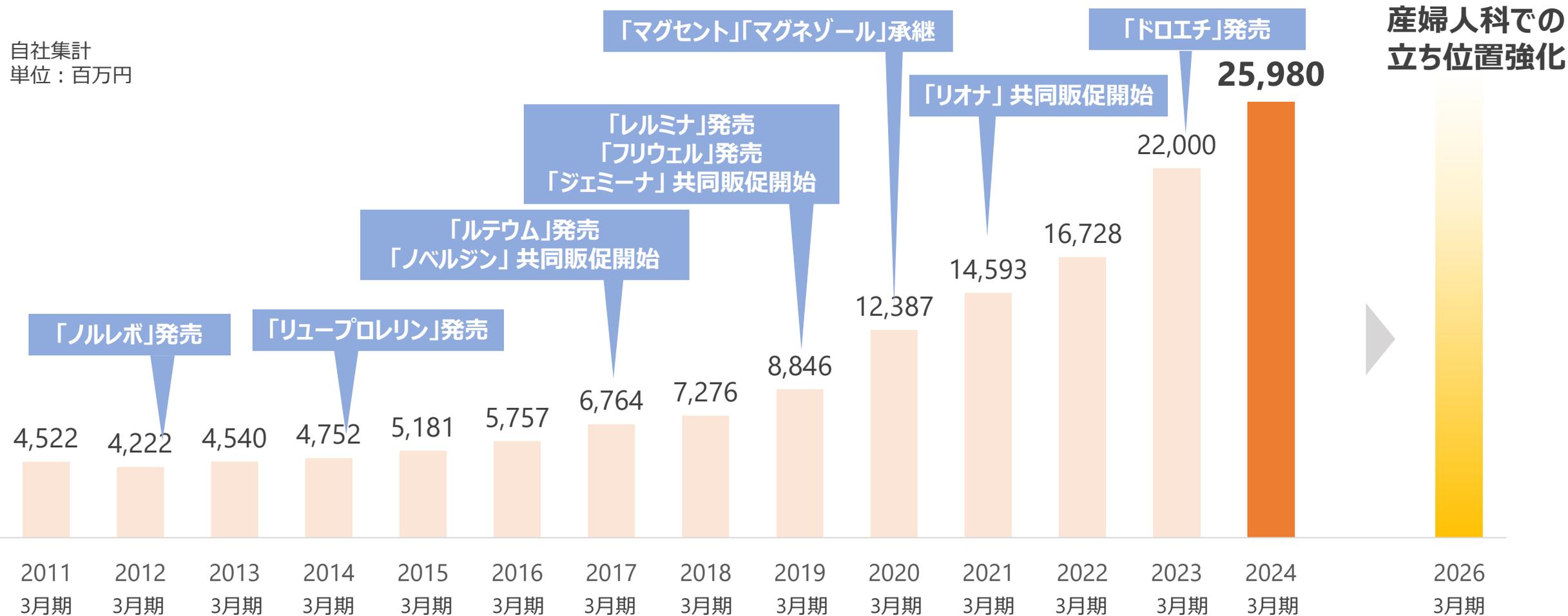
あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・ スペシャルティ領域
- ・ 開発パイプライン
- ・ 海外事業の展開

あすか製薬の産婦人科製品売上推移

自社集計
単位：百万円



産婦人科領域での年度売上No.1※を達成

※ 自社推計

産婦人科領域での立ち位置強化

他社協業の推進

- ・サスメド社と産婦人科領域における治療用アプリの共同開発
- ・Red Arrow Therapeuticsと妊娠高血圧症候群治療薬開発の共同研究

アラウンドピル（医薬周辺領域）への展開

- ・CVCファンドを設立し、投資を開始
- ・LIFEMとフェムテックに関する包括的業務提携
- ・女性の健康に関する研修動画の販売を開始
- ・女性のウェルビーイングに特化した「NEXT BLUE2号ファンド」への出資

疾患啓発活動

- ・女性のための健康ラボMint⁺を通じた情報発信の継続

女性のライフステージ別 産婦人科製品一覧

幼少期	思春期	性成熟期			更年期	老年期
	避妊薬	ドロスピノン (LF111)	アンジュ	ノルレボ	更年期障害	ホーリン
	鉄欠乏性貧血	リオナ (コ・プロ※)				
	性感染症	ラピッドエスピー (コ・プロ※)				
	子宮筋腫 子宮内膜症 月経困難症 月経異常	レルミナ	リュープロレリン	AKP-022		
		ジェミーナ (コ・プロ)	フリウエル (AG)	ドロエチ配合錠		
		PMS/PMDD治療薬	プラノバル	TRM-270		
	切迫流早産 陣痛促進	マグセント	マグネゾール	メチルエルゴメトリン		
		リトドリン	アトニン-O			
	不妊症	HMG注用	uFSH注用	セキソビット		
		ルテウム	ゴナトロピン			

当社が開発中の産婦人科製品
LF111
AKP-022
TRM-270

ラインナップを拡充し
 女性医療に貢献

販売中

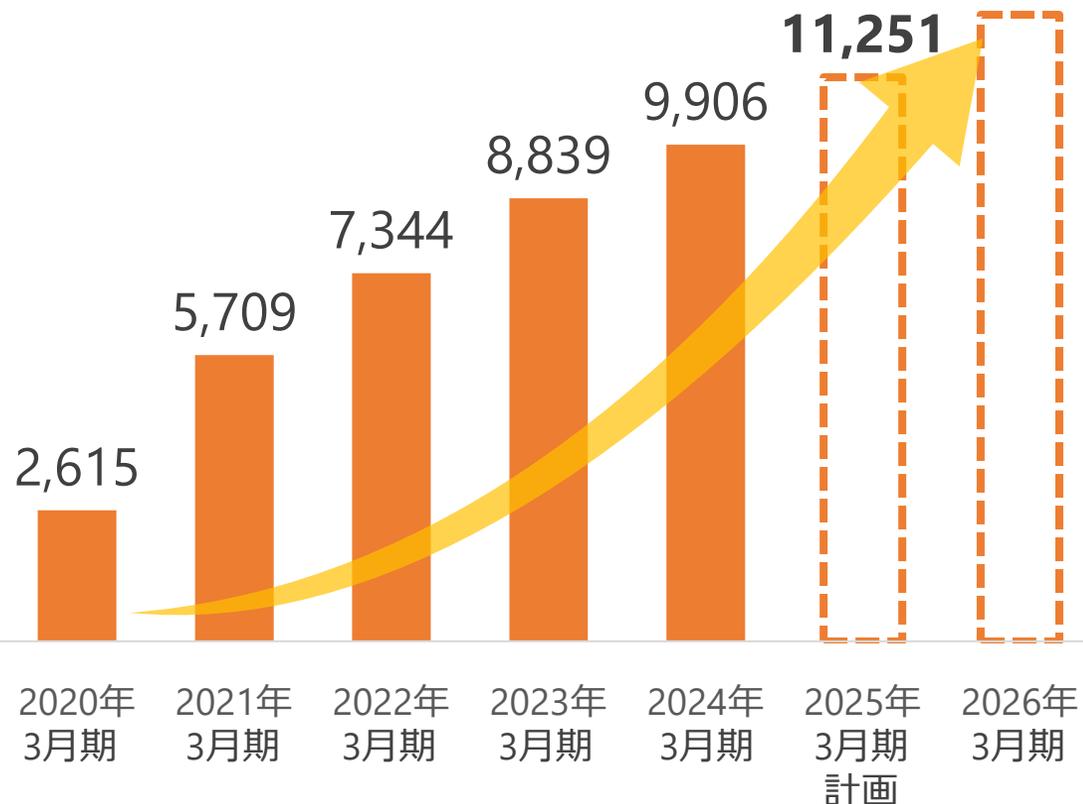
開発中

※主に産婦人科領域を対象

成長ドライバー レルミナ (子宮筋腫/子宮内膜症治療剤)

レルミナ売上推移

決算ベース(百万円)



更なる成長を
目指す

子宮内膜症市場

薬物治療 (ホルモン剤)

108.1万人

ジエノゲスト
46.5万人

GnRH製剤
8.8万人

レルミナ
5.3万人

出典：インテージレセプトデータ
2023年度 (合併症による重複あり)
※2023.4-12月確定 1-3月推定値

子宮内膜症治療において
レルミナの浸透を図る

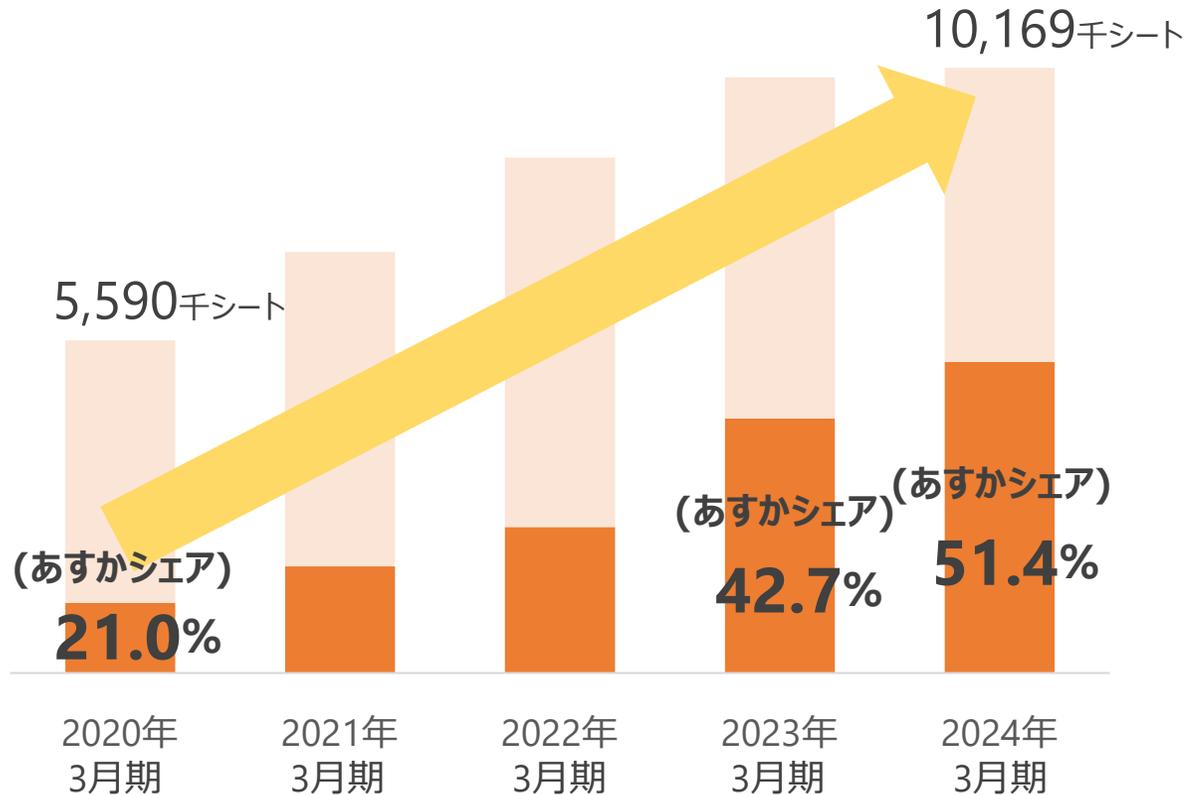
拡大を続けるLEP製剤市場

エンサイスデータに基づく自社集計
無断転載禁止

LEP製剤市場推移

(単位：千シート)

■ あすか製品 ■ 他社製品



あすか製薬のLEP製剤一覧※

ジェミーナ[®]配合錠
フリウェル[®]配合錠LD・ULD「あすか」
ドロエチ[®]配合錠「あすか」

LEP製剤3製品のラインナップで治療選択肢を提供

- ✓ 月経困難症にまつわる不調からの解放
- ✓ QOL・パフォーマンスの向上に貢献

疾患啓発活動による認知向上

- ✓ 伸び続ける市場で更なるシェア獲得を目指す

月経困難症治療への貢献
女性がより一層輝く社会構築への貢献

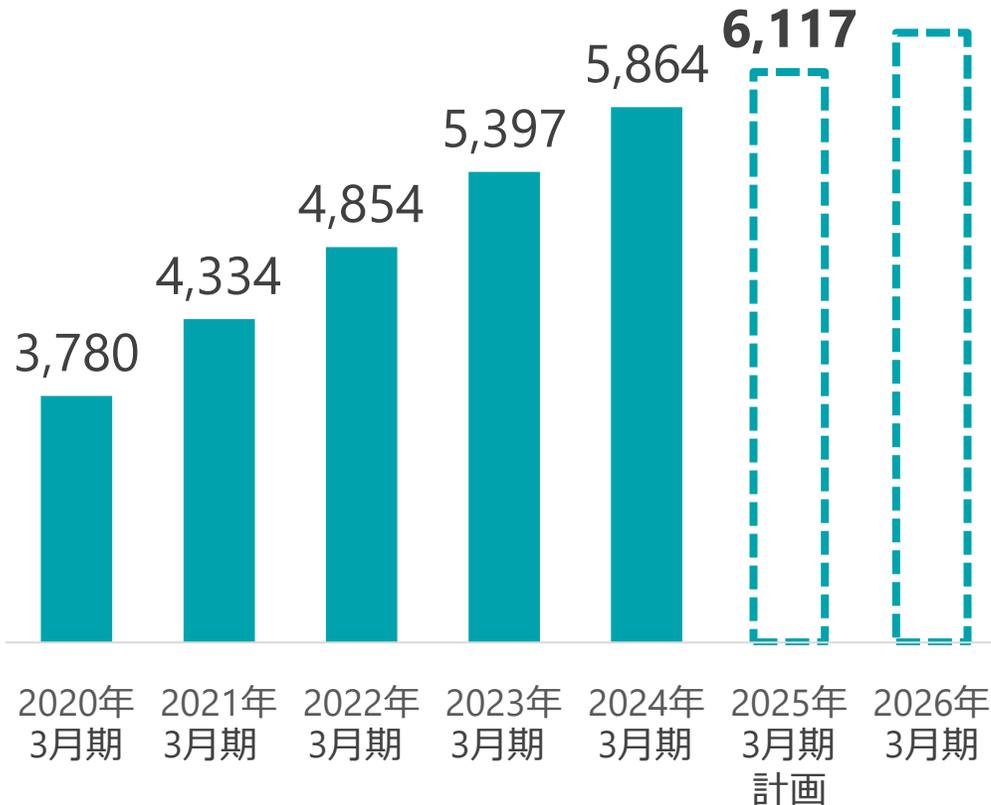
※ ジェミーナ配合錠はノーベルファーマ（株）とのコ・プロモーション

リフキシマによるアンメットメディカルニーズへの貢献

リフキシマ売上推移

決算ベース(百万円)

中計目標
60億 達成見込



肝硬変診療ガイドライン2020

2020年11月発刊

推奨の強さ：強 エビデンスレベル：A

アンメットメディカルニーズへの貢献
肝性脳症小児適応 承認取得 (2024年3月26日)

あすか製薬の使命

小児肝疾患患者さんの健全な成長と
ご家族のQOL向上に貢献する

肝性脳症の基本的な治療薬へ

甲状腺のリーディングカンパニーとして

甲状腺疾患治療剤※の売上推移

決算ベース(百万円)

持続的な
成長を見込む



国内甲状腺製品シェア

95%以上

甲状腺疾患認知の継続した取り組み

- ✓ プライマリ医師などへの疾患啓発
 - ・甲状腺セミナー6回開催 (2,635名出席)
- ✓ 企業健康診断へのアプローチ
 - ・企業健康経営担当者に疾患啓発、検査提案

あすか製薬の使命

疾患啓発の推進と治療への貢献
基礎的医薬品として安定供給の維持

※ チラーヂン、メルカゾール、プロパジール

あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・ スペシャルティ領域
- ・ 開発パイプライン
- ・ 海外事業の展開

開発パイプライン

研究開発の状況 (2024年5月時点)

2024年3月期第2四半期決算説明会からの変更点

開発番号(一般名)/領域・効能	研究※ ¹	非臨床※ ¹	Ph I	Ph II	Ph III	申請	承認
LF111 (ドロスピレノン) 避妊						申請準備中	
(オプション契約) PMS/PMDD※ ² 治療薬 レナサイエンスにて開発中				医師主導Ph II 実施中			
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫				Ph I / II 実施中			
テーマA / 産婦人科領域							
テーマB / 産婦人科領域							
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域					Ph III 実施中※ ³		
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)						承認	
テーマC / 内科領域							
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症				Ph II a 終了※ ⁴			
AKP-017 (テストステロン経鼻剤)	開発準備中						
AKP-021 (mPGES-1阻害剤)							

※¹ 研究、非臨床のため詳細は非開示 ※² 月経前症候群/月経前不快気分障害

※³ 産婦人科を対象とした臨床試験を開始 (2023年11月) ※⁴ 追加Ph I の結果を受けデータを再確認するために再度Ph I 試験を実施中です

開発パイプライン 特徴まとめ

✓ LF111

プロゲステロン単剤の経口避妊剤。**血栓症のリスク低減を期待**して開発中。
➡前倒しで治験が進捗し現在申請準備中。第1四半期での申請を目指す。

✓ TRM-270

腹腔鏡下手術やロボット支援下手術でのハンドリングを重視した**操作性が良好な癒着防止材となることを期待**して開発中。
➡2023年11月に産婦人科領域を対象としたPh III試験を開始。

✓ AKP-022

レルゴリクスにエストロゲンとプロゲステロンを配合。**6か月以上の長期投与が可能となることを期待**して開発中。現在Ph I / IIを実施中。

あすか製薬株式会社

■ 主な取り組み

- ・スペシャリティ領域
- ・開発パイプライン
- ・海外事業の展開

ベトナム ハタファ-社との協業

2021年 ハタファ-社株式を24.9%取得し
持分法適用会社化

ベトナムの成長する医薬品市場
(CAGR10%) で協業を図る



ベトナム市場シェア拡大
アジア地域への進出を目指す

新工場 (PIC/S GMPに準拠) の状況

- ✓ 商用生産開始に向けWHO-GMP適合性申請完了
上期中の承認取得を目指す
- ✓ PIC/S GMP承認取得に向け準備を開始

協業の深化

- ✓ 更なる財務の取り込みによる提携強化を目指す
2024年1月 増資を実行し、議決権所有割合32.6%へ
2024年3月 市中買付により議決権所有割合34.9%へ

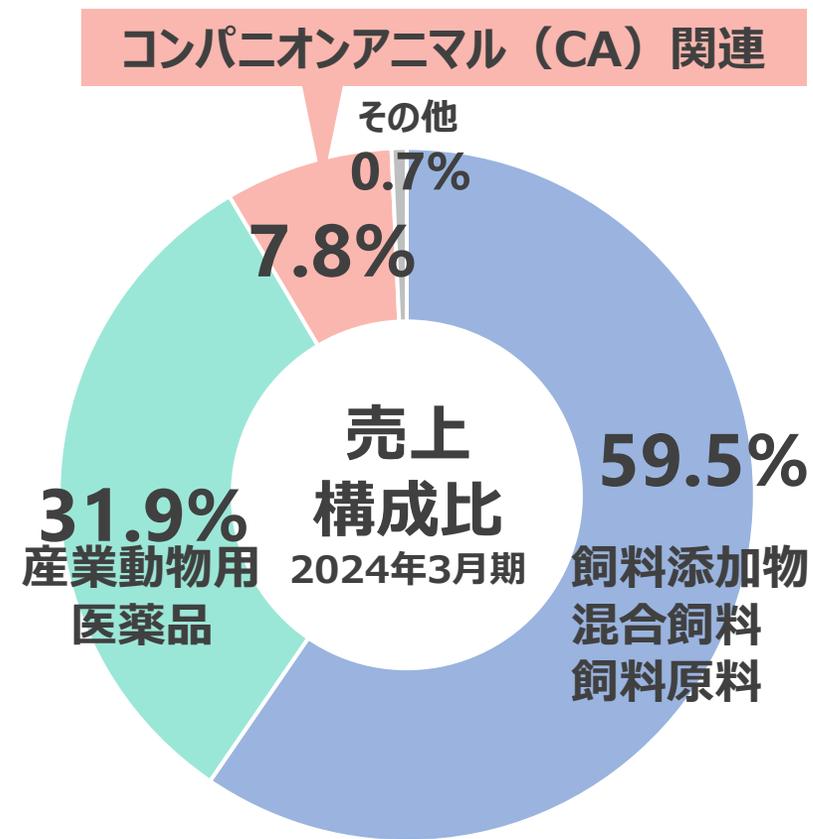
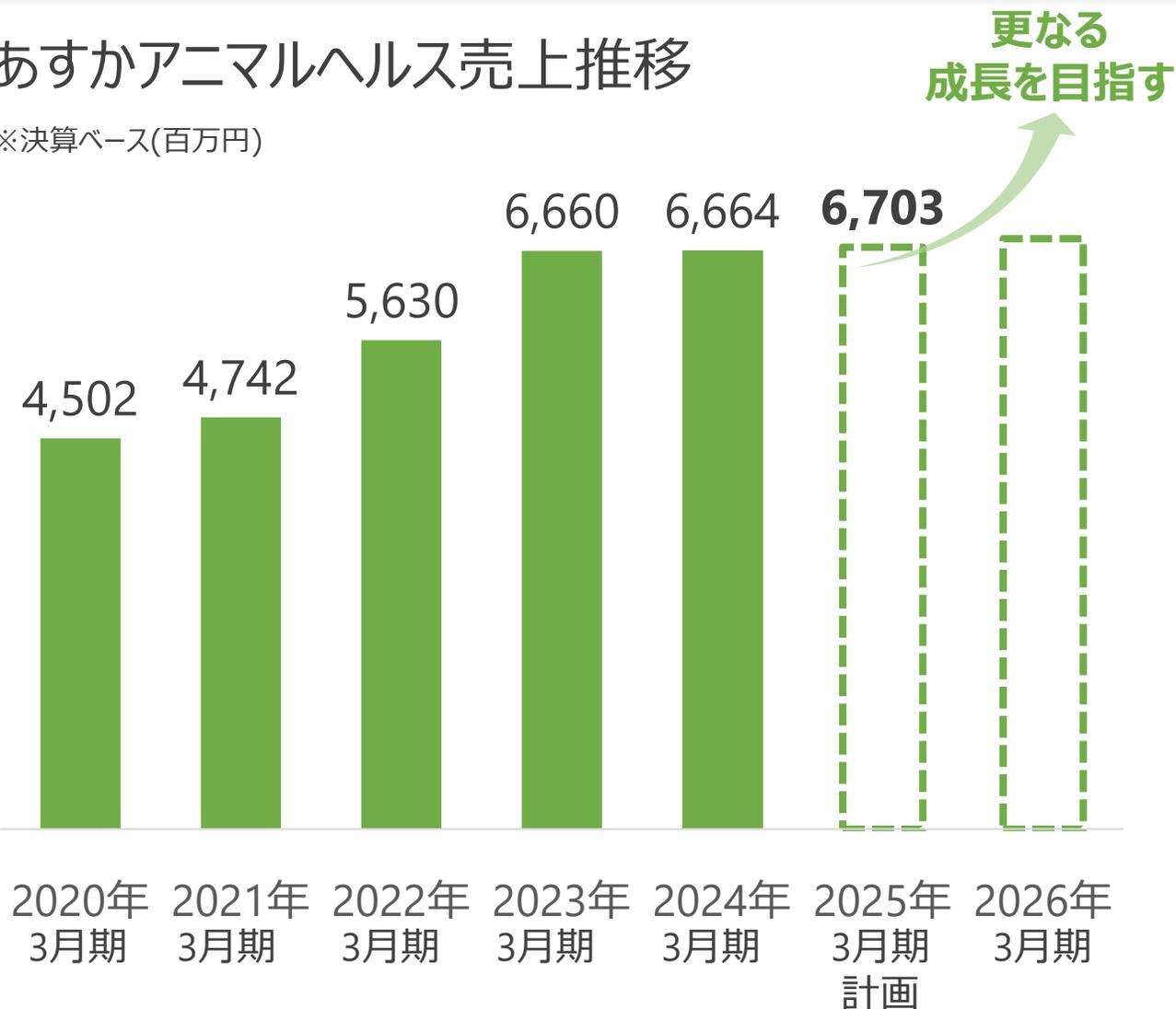
両社のさらなる成長と企業価値向上のため
連結を視野に協業を深化させる

あすかアニマルヘルス株式会社

あすかアニマルヘルス 今期計画と売上構成比

あすかアニマルヘルス売上推移

※決算ベース(百万円)



コンパニオンアニマル (CA) 用
医薬品の開発を推進

あすかアニマルヘルス 重点取り組みと飼料添加物の状況

重点取り組み

利益率改善に向けて動物用医薬品などの製品に注力した営業活動を展開

- 犬・副腎皮質機能亢進症治療剤トリロスタン錠「あすか」の販売強化
 - ➡学会展示、Webセミナーなど継続実施することで浸透を図る
- ヨウ素系殺菌消毒剤ポリアップ16販売強化による防疫推進
 - ➡ポジティブリスト規制対象外物質で生体に優しい製品の浸透を図る
- 水産養殖向け飼料 塩酸L-ヒスチジンの販売強化
 - ➡養豚、養鶏関係者に紹介し商流を拡大

飼料添加物の状況

- 主力のリジン、L-メチオニンの相場は下げ止まりと見られる状況だが、円安進行などもあり先行きは不透明

人と動物が共生できる社会づくりに貢献する

株式会社あすか製薬メディカル

あすか製薬メディカル 重点取り組み

あすか製薬メディカルの強み 内因性ホルモン微量分析技術

重点取り組み 非侵襲性検査事業の拡大

更年期を対象とした
毛髪女性ホルモン量測定キット「Proges」
2024年4月発売



猫 コンパニオンアニマル用キット
2024年度発売予定

ネコ 体毛甲状腺ホルモン量
測定キット
(対象 甲状腺機能亢進症)

ネコ 体毛コルチゾール量
測定キット
(対象 ストレス)

最新の測定技術を通して豊かな健康社会づくりに貢献する

あすか製薬ホールディングスグループの強み

成長の源泉

内分泌の研究・開発に長年にわたり特化し

100年超

多種多様な製品を開発・発売

あすか製薬

産婦人科領域

リーディングカンパニー

産婦人科領域売上No. 1[※]

※自社推計：2024年3月期

あすか製薬

甲状腺領域

リーディングカンパニー

国内甲状腺製品シェア95%

あすかアニマルヘルス

製品ラインナップ

飼料添加物

産業動物用医薬品

コンパニオンアニマル用医薬品

様々な製品を発売

あすか製薬メディカル

分析技術

内因性ホルモン微量分析

非侵襲性検査事業の拡大

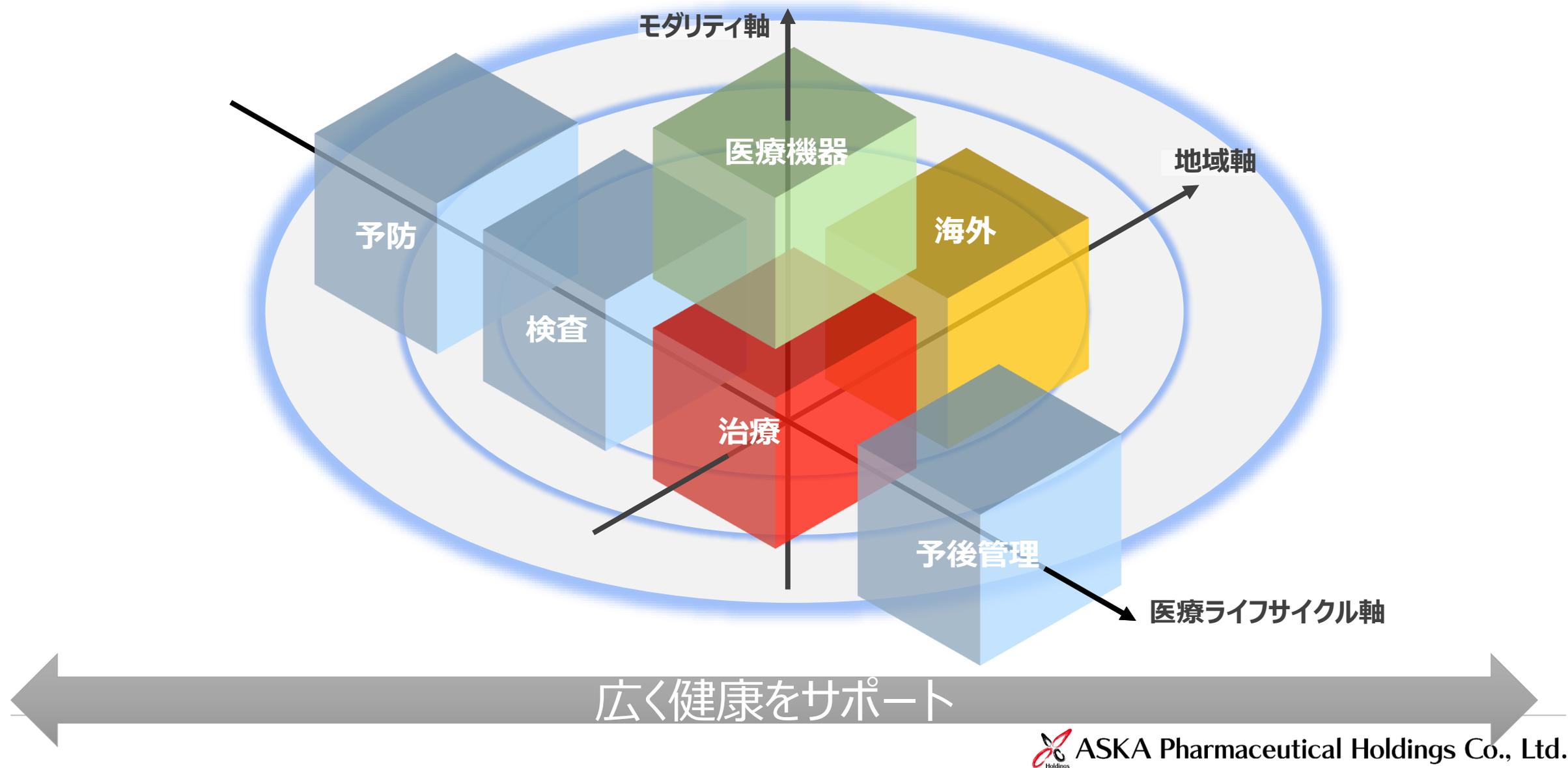
あすか製薬ホールディングス

シナジーの創出

グループ間連携の深化

各分野での連携・協業

スペシャリティファーマを基盤とするトータルヘルスケアカンパニーを目指す



あすか製薬ホールディングスグループ
コーポレートメッセージ

あすも、みらいも、すこやかに



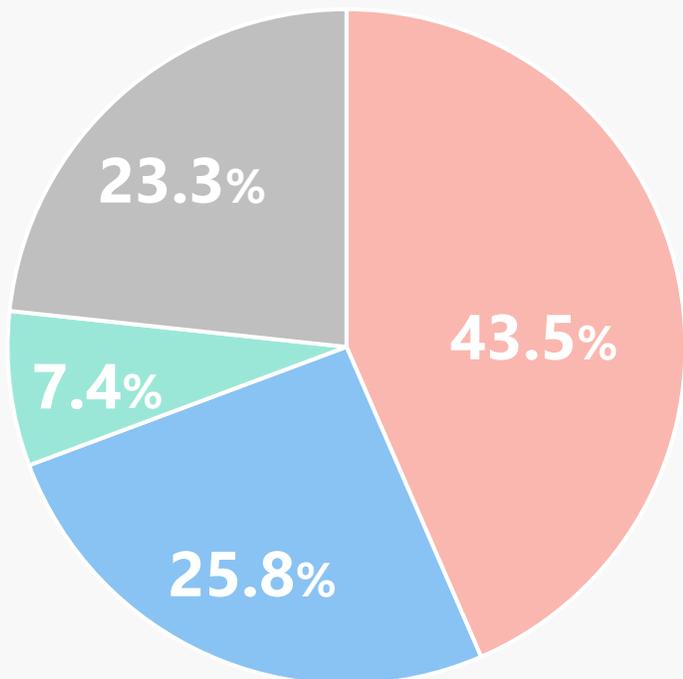
あすか製薬ホールディングス株式会社

参考情報

領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

領域別売上高比率

(2024年3月期)



- 産婦人科
- 泌尿器科
- 内科 (消化器・甲状腺)
- その他

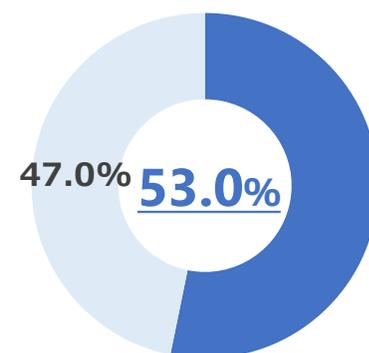
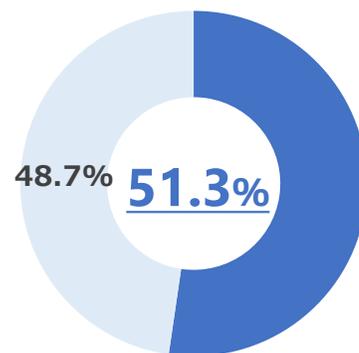
小数点以下第2位を四捨五入しているため合計しても100にならない場合があります

先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2023年3月期

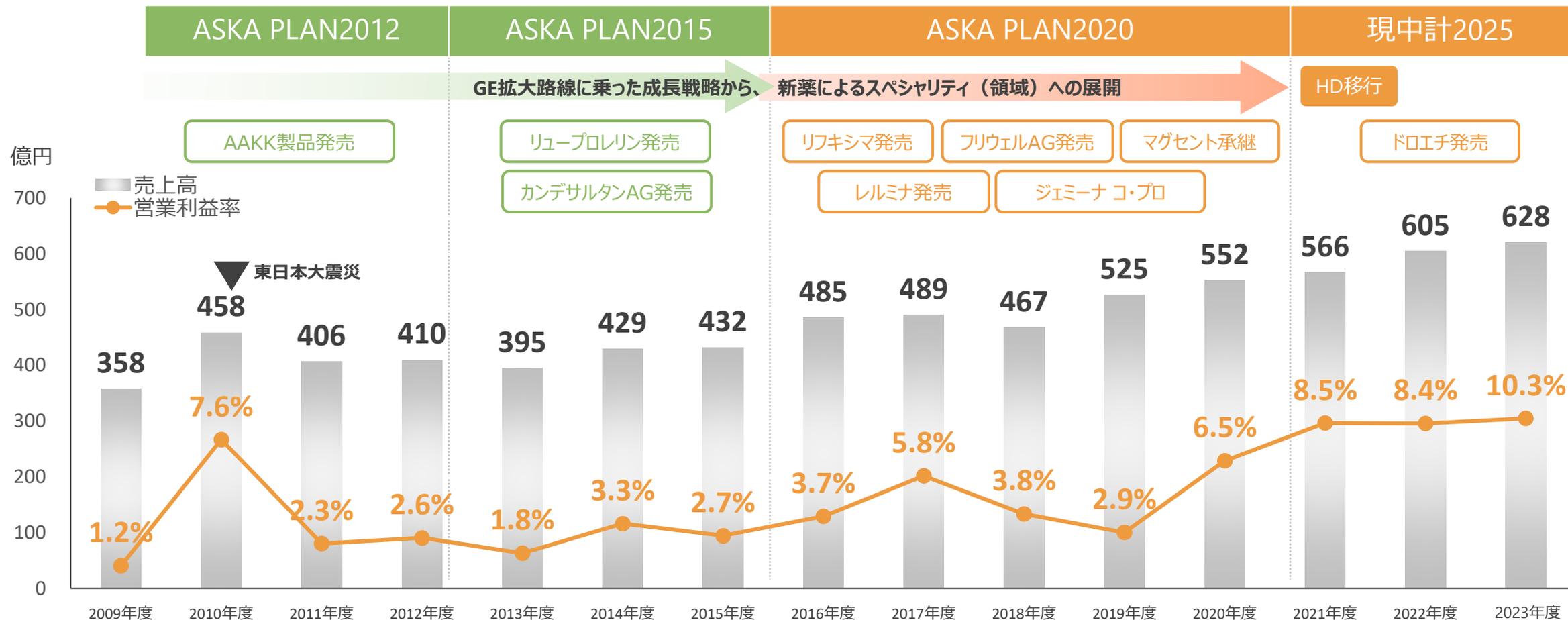
2024年3月期



先発品比率の向上を目指す

(中期経営計画目標数値70%)

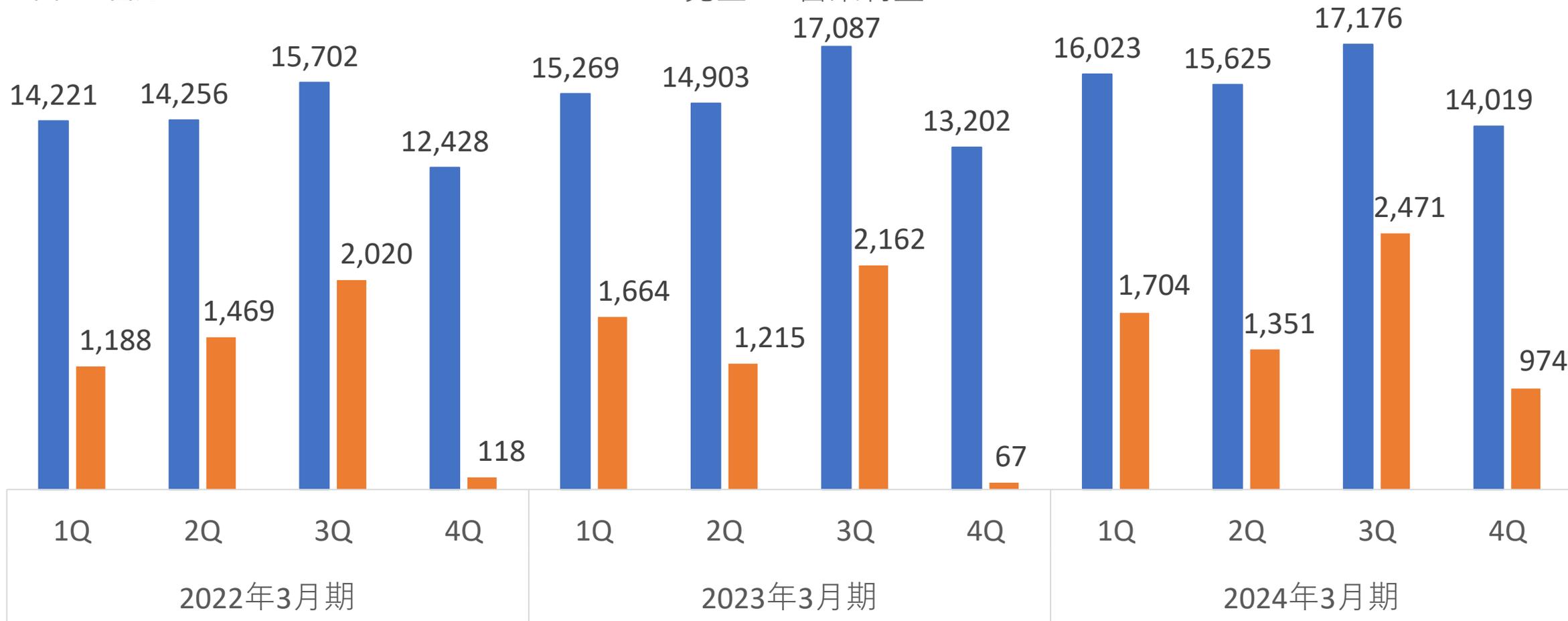
あすか製薬 過去15年の業績振り返り（連結）



期毎の売上、営業利益（過去実績）

単位：百万円

■ 売上 ■ 営業利益



4Qは薬価改定前の買い控えや費用の発生等により売上・利益ともに低い傾向にあります

ライフイベントの変化による月経回数の増加

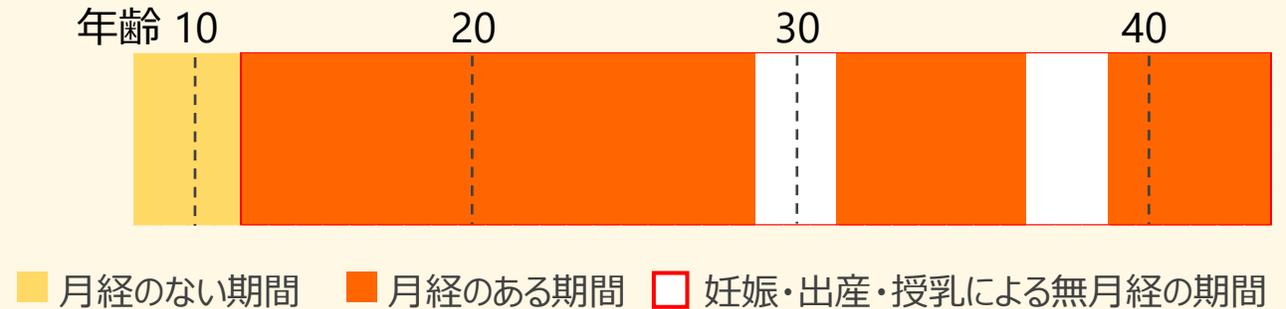
現代の女性は、昔の女性に比べ初経が早く、晩婚化の傾向にあり出産回数が減少している。
生涯に経験する月経回数が増えたことが、月経困難症等の月経トラブルが増えた要因として考えられている。

現代女性の月経回数

生涯の月経回数：約**450**回

生涯の出産回数：約**2**回

現代女性の月経期間

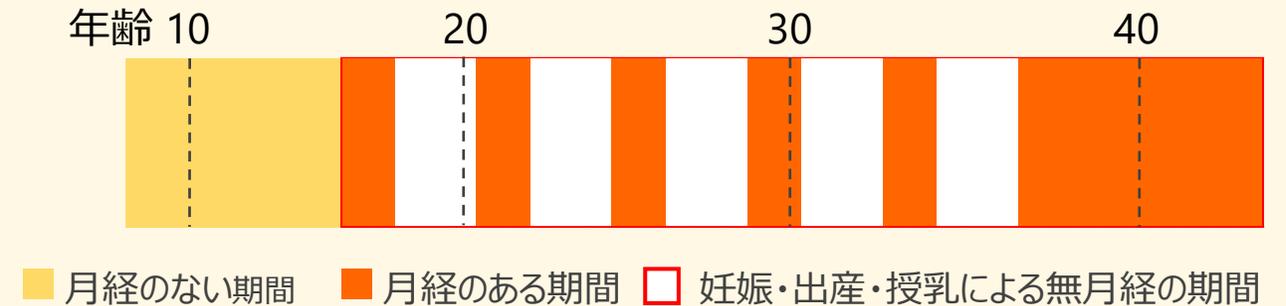


昔の女性の月経回数

生涯の月経回数：約**50**回

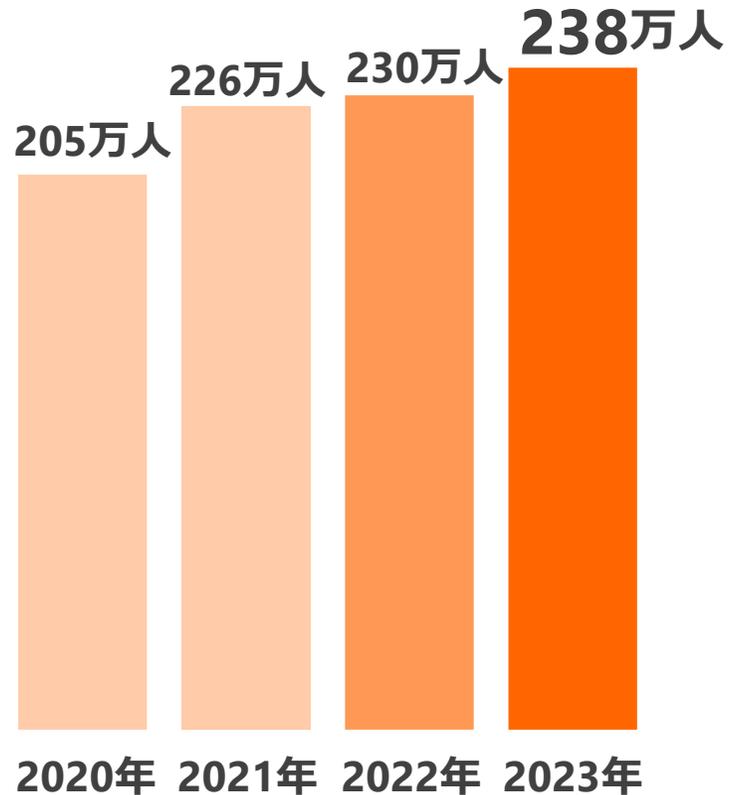
生涯の出産回数：約**5**回

昔の女性の月経期間

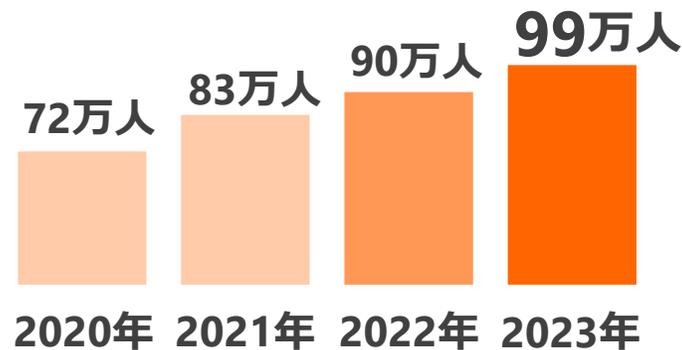


子宮筋腫・子宮内膜症・月経困難症の患者推移

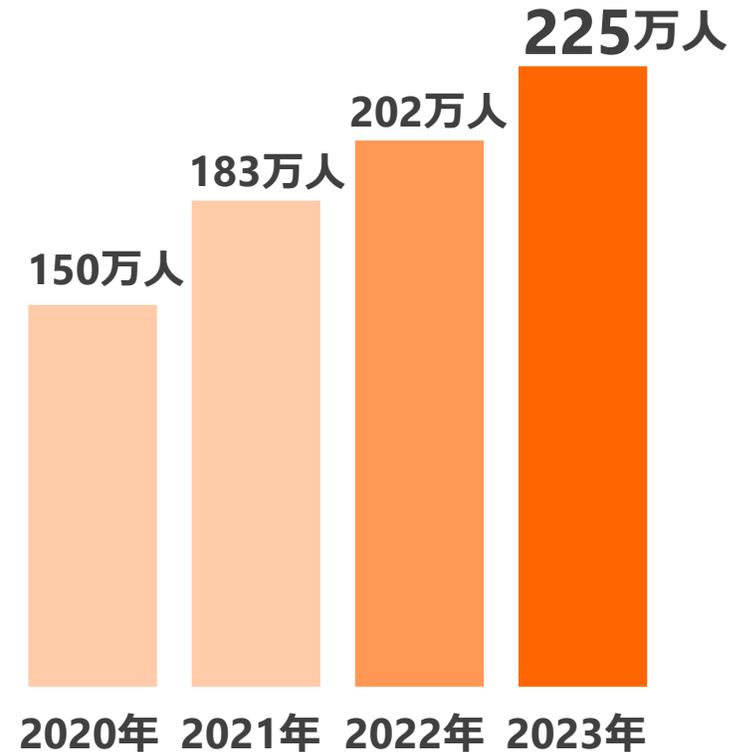
(電子レセプトデータからの拡大推計値、各年1月～12月までの12か月間)



子宮筋腫



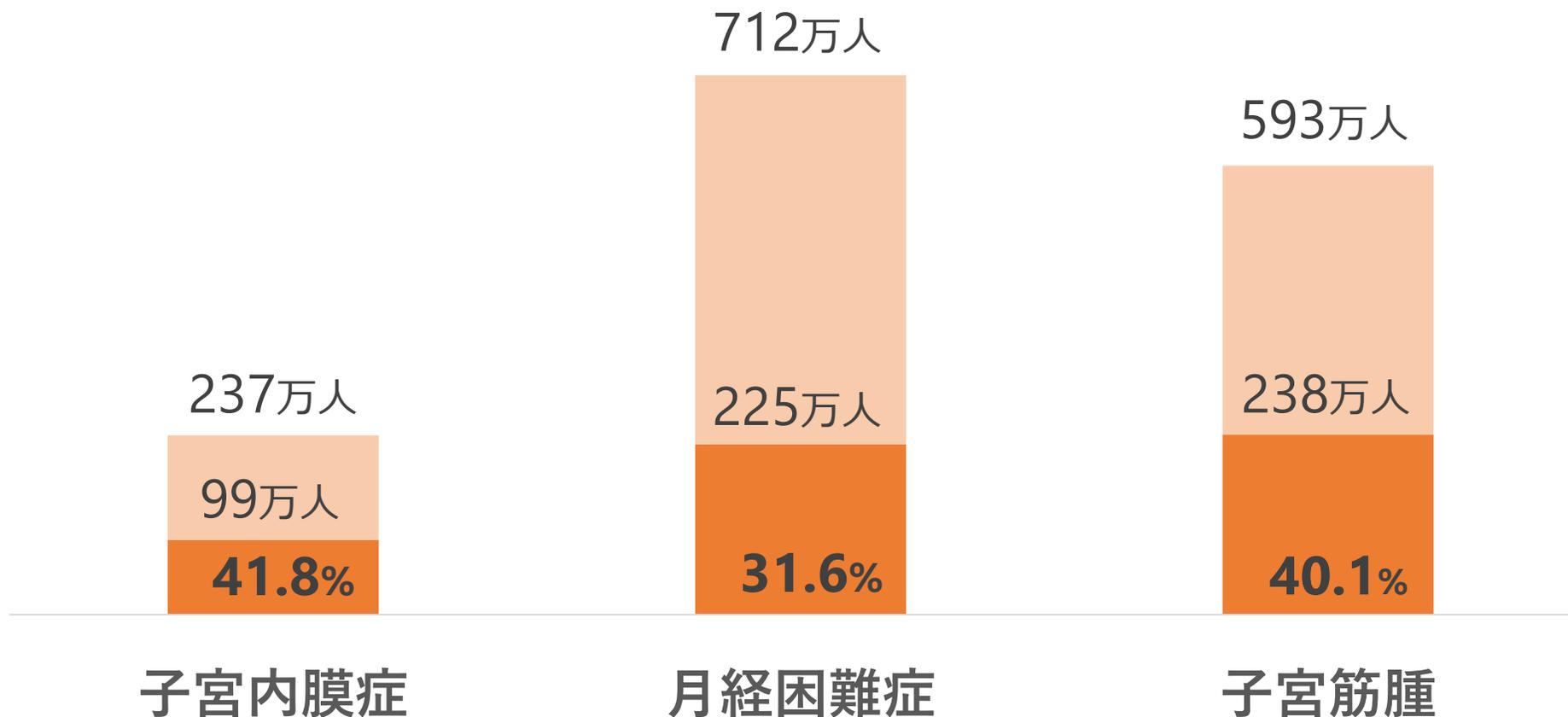
子宮内膜症



月経困難症

婦人科疾患における患者数の推計（外部データからの自社推計）

■ 推計実患者数 ※1 ■ 推計潜在患者数 ※2

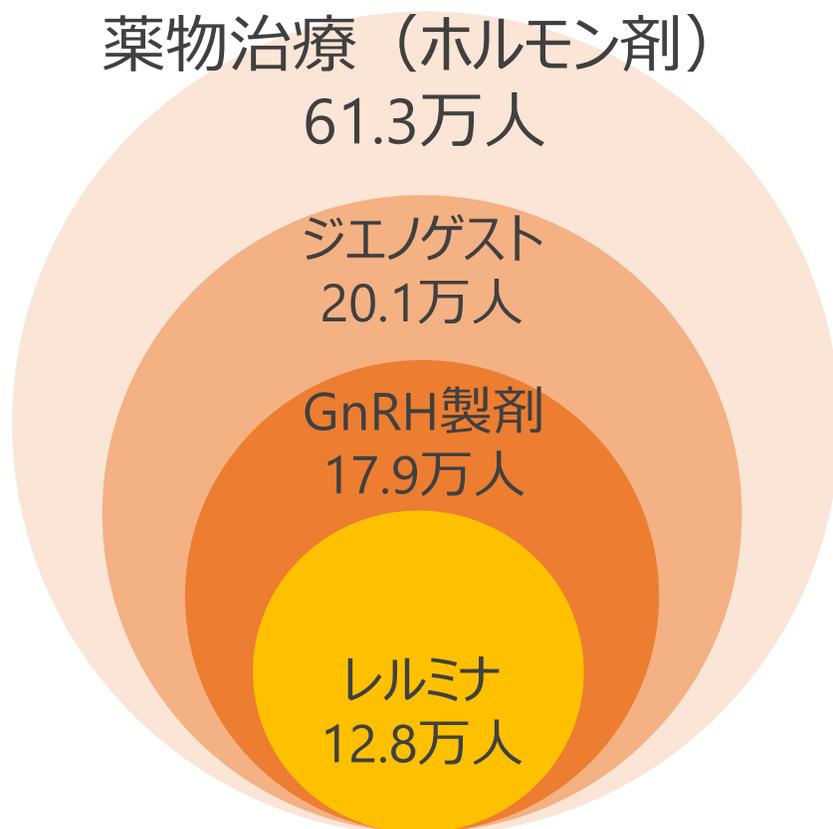


※1 株式会社JMDC調査（電子レセプトデータからの拡大推計値 期間：2023年1月～2023年12月）

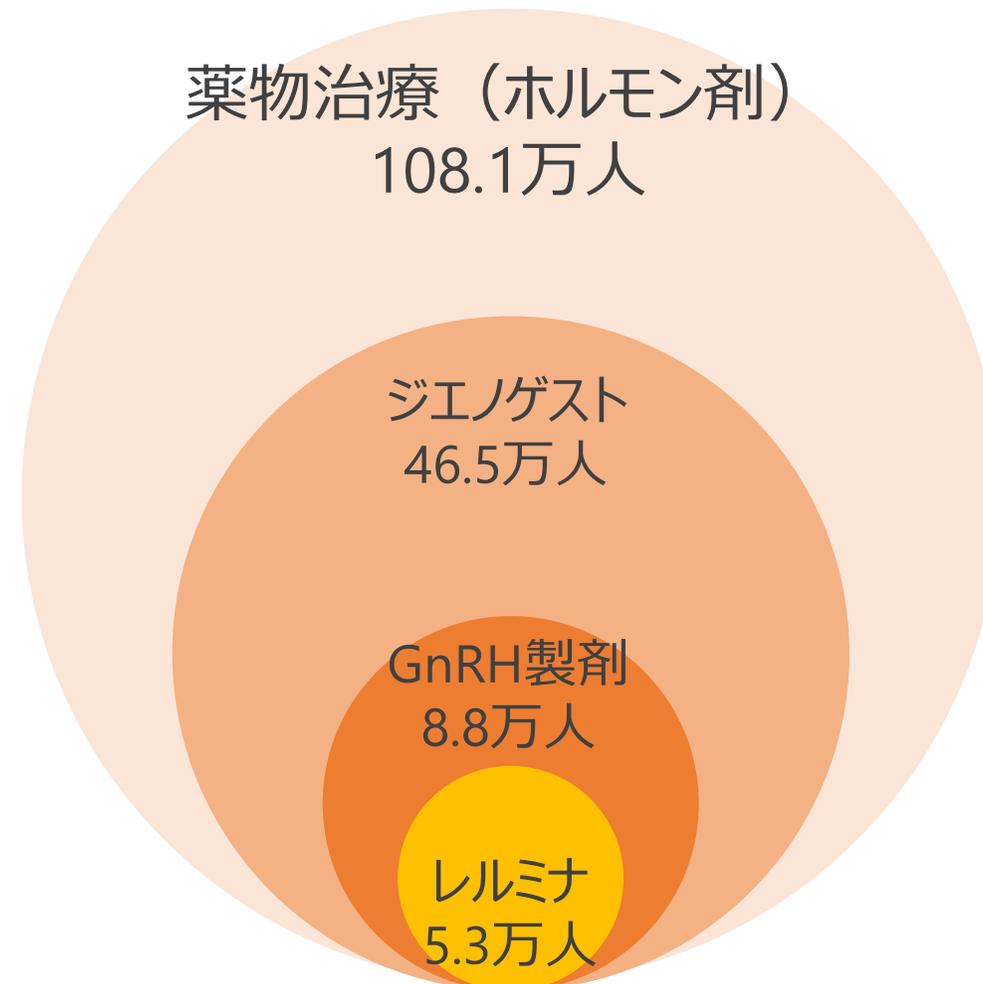
※2 人口統計2023年より15-49歳女性の人口を2,373万人、各種報告より罹患率を子宮内膜症10%、月経困難症30%、子宮筋腫25%と仮定し算出（仮定の出典は下段）

子宮筋腫：子宮筋腫は30歳代以降の女性の30～40%（出典：「子宮筋腫 子宮内膜症 子宮腺筋症 診療マニュアル」百枝幹雄）・生殖年齢女性の20～30%（出典：「子宮筋腫の取り扱い方」岩下光利：婦人科治療2009 Vol.99No.1）
 月経困難症：平成12年度厚労省科学研究報告：32.8%（鎮痛剤を必要とする月経困難症の割合）・勤労婦人の月経随伴症状に関する研究27.8%（月経時に何らかの症状を認めた割合）・厚労省科学研究報告（2000年）：33%（中等度以上の月経困難症の割合）
 子宮内膜症：産婦人科76巻7号2022年7月,618-623・N Engl J Med 2020;382:1244-56・Prescott J, et al : a prospective cohort study of endometriosis and subsequent risk of infertility. hum reprod 31: 1475-1482,2016
 ・Shafir AL, Farland LV, Shah DK, et al. Risk for and consequences of endometriosis: a critical epidemiologic review. Best Pract Res Clin Obstet Gynaecol 2018;51: 1-15.

<子宮筋腫>



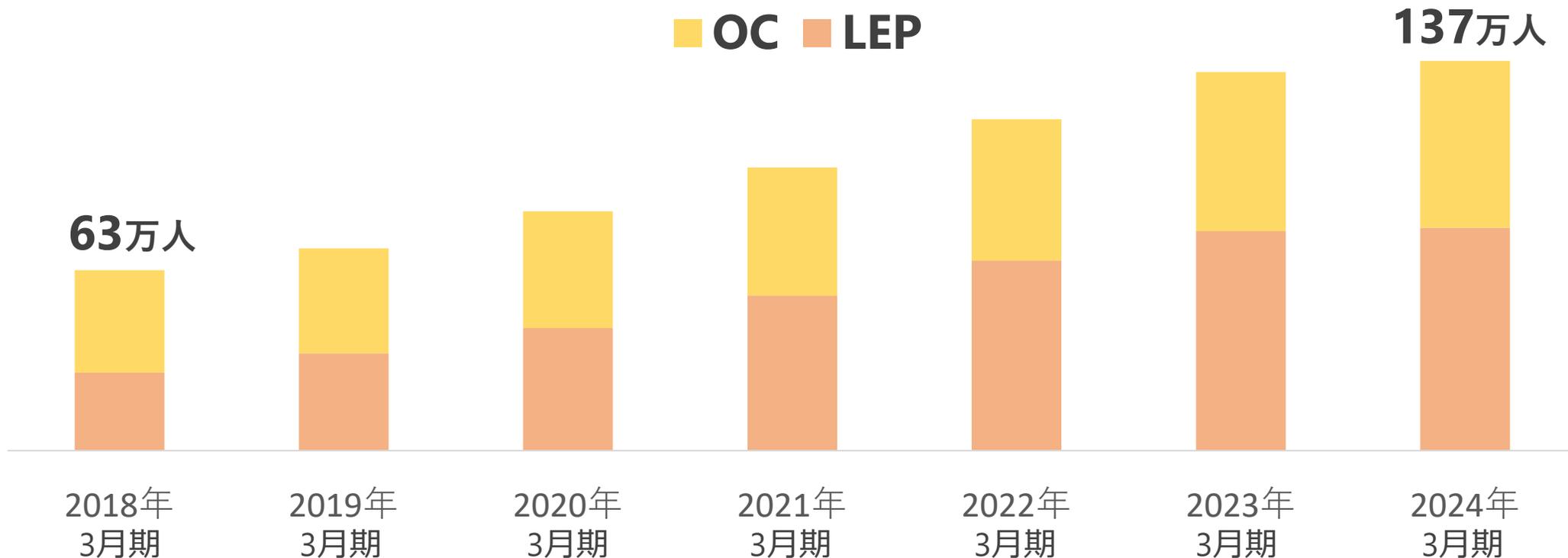
<子宮内膜症>



OC/LEP※の推定服用者数推移

エンサイスデータに基づく自社推計
無断転載禁止

OC/LEP推定服用者数の推移



推定服用者数は2024年3月期に2018年3月期比2.17倍に増加

・15-49歳の女性人口：2,372万人 出典：「人口推計」（総務省統計局）<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2023np/index.html>

※OC：経口避妊剤（自由診療） LEP：月経困難症治療剤（保険診療）

リフキシマ ガイドライン浸透の取り組み

肝硬変診療ガイドライン Annual Review更新 (2023.4)

国内長期臨床データ掲載

(以下、追補内容の抜粋)

「既に、非吸収性合成二糖類にadd-onする投与方法で実臨床でもその有効性が報告されている。さらに我が国からの12ヵ月までの長期成績でも有効性と安全性が報告された。」

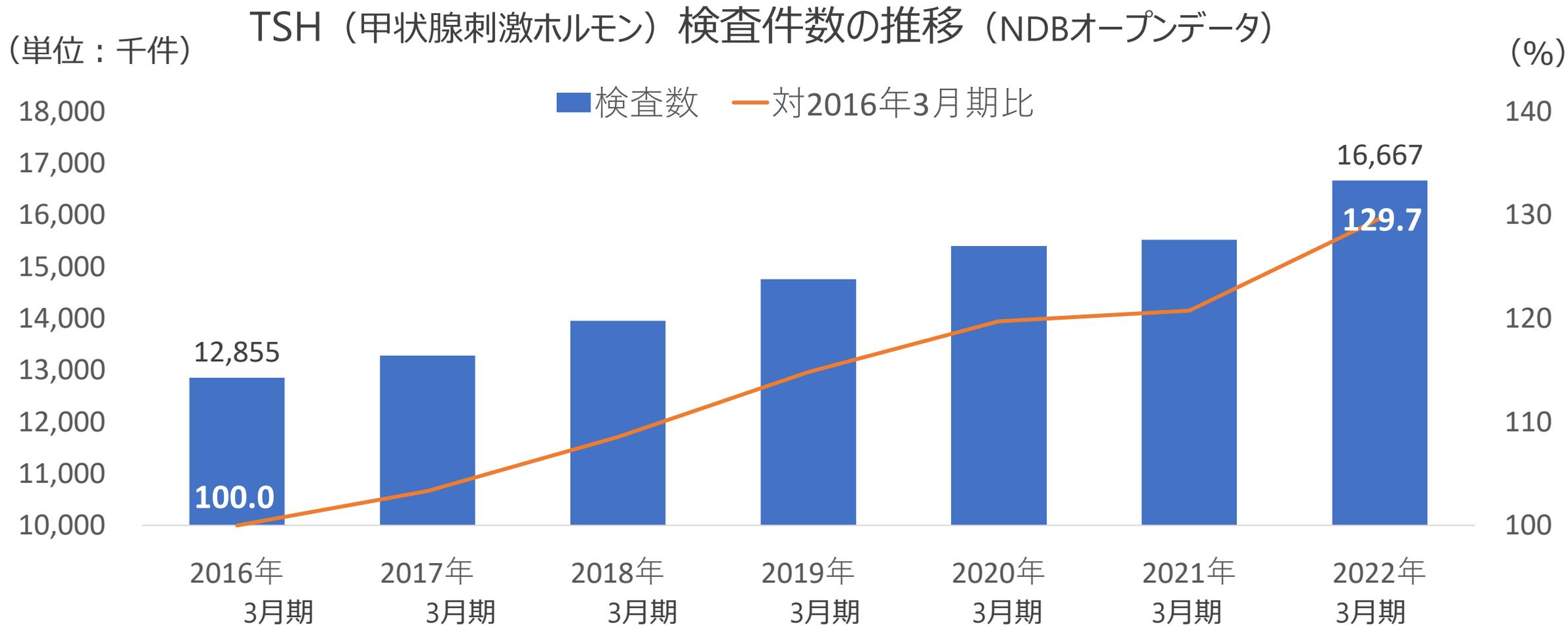
ガイドライン浸透の取り組み

MR to Dr
リフキシマ説明会回数

412回	▶	1,117回
2023年 3月期		2024年 3月期

ガイドライン浸透による
肝性脳症患者さんへの貢献

甲状腺 啓発活動の成果



TSH検査は2022年3月期に2016年3月期比1.29倍に増加

TSHは脳下垂体から分泌されるホルモンで甲状腺を刺激して甲状腺ホルモンの分泌を増やす作用があります。
TSHを測定することで甲状腺ホルモンの過不足を知る事ができます。

Hataphar (ハタファー) 社の概要

商号：Ha Tay Pharmaceutical, J. S. C.

創業：1965年

本社：ベトナム ハノイ市

従業員：約1000名

上場：ハノイ証券取引所（2008年）

2023年度売上高：1,999十億VND（12,166百万円）

2023年度営業利益：99十億VND（604百万円）

2023年度純利益：89十億VND（541百万円）

事業内容：医療用医薬品、一般医薬品、健康食品等の製造販売、輸入販売等

2023年度売上高はベトナム製薬企業第4位

主要都市に支店などを有し、流通販売はベトナム全土をカバー



ESGの取り組み（11のマテリアリティ）

環境

- ・環境の保護と環境負荷の継続的低減

社会

- ・**女性の健康への貢献**
- ・アニマルヘルスへの貢献
- ・人材育成
- ・従業員エンゲージメント
- ・革新的な製品の創出
- ・医療アクセス拡大
- ・高品質な製品の安定供給
- ・製品の適正使用推進

ガバナンス

- ・コーポレート・ガバナンス
- ・法令遵守とコンプライアンスの徹底

創立100周年を機に2020年より運営開始

Mint+

女性のための健康ラボ Mint+

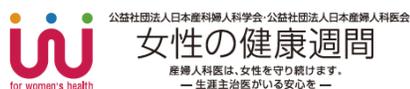
キーメッセージ

知ることは、自分を守ること。



医師監修のもと、正確な情報を発信し
女性に関するヘルスリテラシー向上に貢献

あすか製薬は以下のプロジェクトを通して、
女性の健康問題解決に取り組んでいます



女性の働き方改革！
生理快適プロジェクト



人的資本投資 ～成長を支える土台の構築～

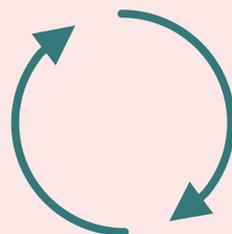
2024年上期より以下の施策を導入

ワークサポート応援金

同僚のライフイベント
(出産・育児・傷病・介護)を
支える側の従業員に対する応援制度

全従業員がん保険

正規従業員を対象に、
全額会社負担でがん保険加入



- ・同僚のライフイベントに対しポジティブになれる風土の醸成
- ・従業員が安心感をもって働ける環境整備

お問い合わせ先

グループ経営企画部

e-mail : kouhou@aska-pharma.co.jp